

住吉の津の事と見ゆれば、御津は大津のいひ也けり、

〔萬葉集五雜歌〕山上憶良頓首謹上

好去好來歌一首 反歌二首

唐能遠境爾都加播佐禮麻加利伊麻勢略○中 事了還日者略○中 大伴御津濱備爾多太泊爾美船播將  
泊都都美無久佐伎久伊麻志氏速歸坐勢

反歌

大伴御津松原可吉掃兵和禮立待速歸坐勢略○中

天平五年三月一日 冥宅對面獻三日

謹上大唐大使卿記室

山上憶良

〔萬葉集七雜歌〕攝津作

大伴之三津之濱邊乎投曝因來浪之逝方不知毛

〔萬葉集十五〕遣新羅使人等悲別贈答及海路慟情陳思并當所誦詠之古歌

大伴能美津爾布奈能里許藝出而者伊都禮乃思麻爾伊保里世武和禮

〔和漢名數地理〕日本三津

阿濃津伊勢

〔倭訓栞前編二〕あの中 萬葉集にくさかげの安努とかけるもあのとよめり延曆儀式帳に

草蔭の安濃と書り伊勢の安濃郡をいへり○中 安乃津市は安東郡專當沙汰文に見えたり○中

略 あのとつを武備志に洞津と書せるはあなのつの義なのは同音也よて又伊勢穴津とも書

せり織田信包あのと津の城主たりし時穴津少將と呼し事大閤記に見えたらば武備志も我

邦の人のいひしによる成べしされど草かげの枕詞によれば青野の義なるべし草の蔭野な

伊勢國  
阿濃津